

農業土木部門 仕事であつたいい話し。

肥培かんがいのくさ〜い、いい話!

お読みになった方、そうでない方、いらっしゃると思いますが、前回(ドカンNo.11)は、肥培かんがい施設の効用や歩みを紹介させていただきました。

今回は、少し視点を変えて、肥培かんがい施設の設計で出会った犬たちに、人との関わり方や生き方について教えられた、「いい話」を紹介します。

犬に教えられた「一期一会」と「仁」 一期一会

一期一会とは、華道に由来することわざです。『あなたとこうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ないたった一度きりのものです。だから、この一瞬を大切に思い、今出来る最高のおもてなしをしましょう』と言う意味の、千利休の茶道の筆頭の心得です。平たく言えば、これからは何度でも会うことはあるでしょうが、もしかしたら二度と会えないかもしれないという覚悟で人には接しなさい、ということです。

設計の打合せで農家宅を訪れますが、必ず一番にお出迎えしてくれるのが、犬たちです。私たちが訪れると「待ってました〜っ!」の如く、一目散に大喜びで出迎えてくれます。犬たちはただ遊んで欲しくて来ているのかも知れない、また、私が犬好きだからそう思うのかも



待ってましたっ!

知れませんが、とっても幸せな気分させられます。勝ち組・負け組や利益主義、隣人に対する無関心さが多いこの世の中で、犬たちに人との関わり方やおもてなしの心を教えられたような気がします。本当に癒されます…。

仁…思いやりの心

己の欲せざる所を人に施すこと勿れ

『わが家の門を一步出て、人に会ったら、その人がどんな人であれ、寛容に接するよう「一期一会」の精神でお会いすべきである。また、温かな心で接しなければならない。自分が嫌いだと思ったことは、恐らく相手も嫌いなはずだ。だから、自分がして欲しくないことを人にしてはいけない。そういう心を持って人に接する限り、人から怨まれるようなことはないはずだ。何をかいても「仁」が人にとって大切なものだ』と、論語は諭しています。

どんなにいろいろなことができ、いろいろなことを知っていても、優しくなければ人としての価値は見い出せません。人の優しさに触れたら温かい気持ちになり、自分もそういう人になろうと思う。その時、人の心に「仁」は育っているといいます。

犬たちは、決して出しゃばったり、偉そうにしたり、誤魔化したり、悪口を言ったりはしません。ただ、近くに寄り添って見



お出迎えに来たよ〜っ!



傍らにはいつも犬たちが

守ってくれる、そんな犬たちから優しさを感じます。

時たま、イタズラしますが…(笑)

人との関わりを大切に設計

私たちが出会う農家の方々には、気遣ってくれる人、話を分かってくれる人、その一方で、無理難題を押しつける人、コロコロ意見が変わる人、全く無関心な人、さまざまです。そんないろいろな人に出会えるから、そこに農業土木の面白さとやりがいがあります。

これから、いろんな人と出会い、関わりを持っていくと思います。誰一人として特別扱いすることなく、押しつけず、偉そうにせず、「一期一会」と「仁」の精神で、人との関わりを大切に設計を心がけて行きたい。



打合せに参加するおとうさん?